

新会員紹介

# 下山 順一郎さん

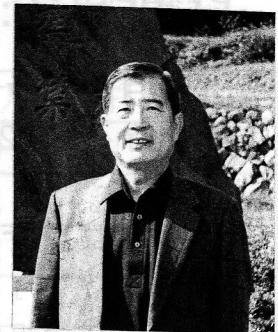
(平成13年3月31日定年)

〒370-0413 尾島町すずかけ14-4 電話 0276-52-1172

E-mail sta6243s@aqua.ocn.ne.jp

会員の皆様、お久しう振りです。この度、3月31日で定年を迎える「菱の実会」に正会員として入会させていただきました。

ちょっとびり「ふるさと」に戻ってきたような感じもしますが、いずれにしても一兵卒です。しかも住まいが尾島、在職中の42年間ずっと馬電のみという世間知らずで過ごしてきました。使いつ走りでも何でもさせてもらうつもりでありますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## 会員投稿 『人生の意外性を楽しもう！』

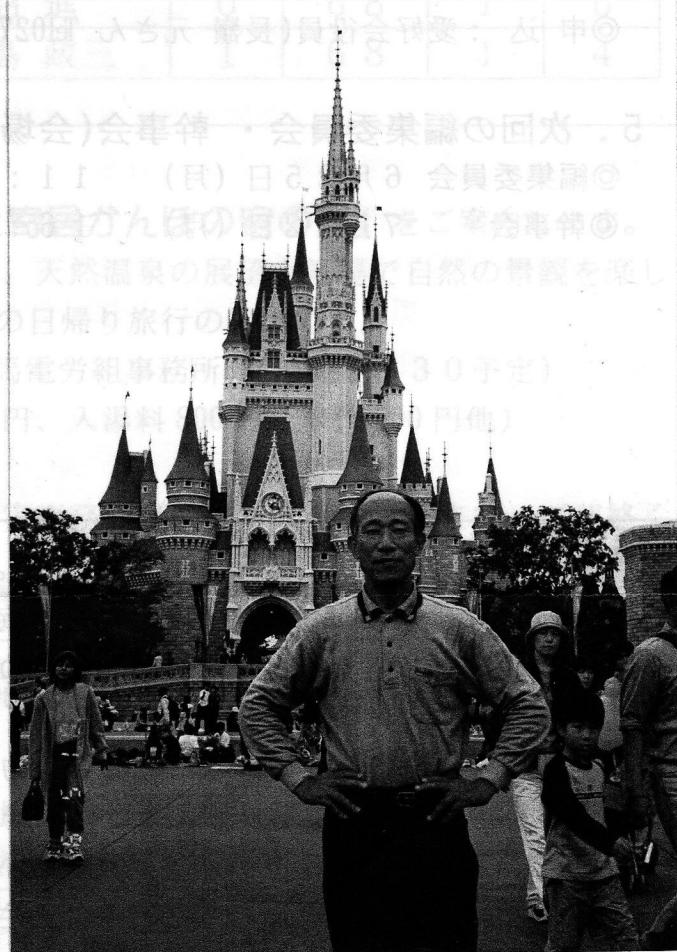
新田町 近藤正司 (01-04-20記)

一本道のように見える人生の、そのすぐそばに、実は、ほかにもいくつかの道が用意されている。要はひよいとそちらへ踏み出す勇気があるかどうか、なのかも知れない。須藤一郎さんという方が最近書かれた「世界一小さい美術館ものがたり」(三好企画から平成13年1月20日発行)を読み終えて、しみじみとそんなことを思った。

生命保険会社に勤務されていた普通のサラリーマンで、絵を専門に勉強したこともない須藤さんが、美術館で、ある無名の現代画家の作品と出会い、見た瞬間とりこになり、彼の作品の収集を始めた。ある程度作品がたまつたころ、画家が命がけでかい絵を独り占めしていくいいのか?という疑問に突き当たり、11年前に自宅を「すどう美術館」として開放された。38年余の会社人生に終止符を打った3年前に、すどう美術館を東京郊外の自宅から銀座に移し、現在も館長として若手画家の育成にあたらされている。ところで私は、商品開発の鬼になり、自分の担当した事業は全て業界ナンバーワンに育てよう!を目標にし、それらを達成して充実した気持で昨年3月会社人生に終止符を打つつもりであったが、日がたつにつれ、何かもの足りない気持におそわれた。

そこで、会社人生で取り組んできた技術の勉強は全て棚上げし、しばらくは文系の世界を楽しもうと考えている。

(誌面の都合で次回へ続きます、ご期待ください)



## 会員投稿 『人生の意外性を楽しもう！！』

(先月号から続く)

新田町 近藤正司 (01-04-20 記)

1. 定期的な勉強として、若い人達と机を並べて法律や語学の勉強を楽しんでいる。
2. 一時的な取り組みも、次に紹介する。

- (1) 平成13年2月25日 東毛学習センターで開催された「21世紀の教育を考えるシンポジウム」に出席し、(元)文部大臣科学技術庁長官、(現)内閣総理大臣補佐官 参議院議員 中曾根弘文先生の「教育改革で新しい国づくりを」の基調講演でいろいろと講義を受けた。
- (2) 平成13年3月21日 東京都美術館へ出向ぎ「国宝 鑑真和上展」を満足いくまで鑑賞した。8世紀に後半に建立された、奈良の唐招提寺金堂が、平成12年から10年間かけて解体修理されるため、この機会をとらえて、数多くの国宝が20年ぶりに上京し、1月27日から3月25日までの間、東京都美術館に展示されたものである。鑑賞を終えての感想であるが、中国の鑑真和上は、日本の興福寺の僧、栄叡と普照の懇請を受け、日本に正しい戒律を伝えるため、五度の挫折を克服して我が国にたどりついたが、この命がけの難題に取り組む情熱に強く圧倒された。
- (3) 平成13年4月14日 足利市民会館に足を運び、日本の伝統的な芸能の一つであり、NHK大河ドラマ「北条時宗」に主演の和泉元弥(和泉流20世宗家)による「狂言の世界」を満喫した。尚、和泉元弥の挨拶の中で「素直な気持ちで努力すれば、心もどんどん成長する」という言葉が大変印象的であった。

ところで、話を須藤一郎さんに戻し、彼の人生論を紹介する。定年退職される多くの人の挨拶状に「私はこれから第二の人生を、好きな趣味をみつけ、ゆっくりと楽しみながら生きていきたい」と書かれているが、これでは会社生活を中心であった第一の人生が否定されていて、そこに誇りの持てる生活がなかったと受け取られかねない。人生と言うものは長い旅であって、楽しいことや苦しいこと、その他いろいろな事があっても、全て続いているものと考えておられ、須藤一郎さんには「第二の人生」はなく仕事や、やることは変わっても、いつも「第一の人生」しかないと思っておられる。最後になるが、自分の一生は他人の評価ではなく、自分が決めるものであり、納得のいく生き方をしなければと私は考えている。勇気を持って、人生の意外性を楽しめるようにチャレンジを続けていきたい。

(おわり)

